

今年の日高の冬は寒さが厳しかったものの雪は少なく、当調教場での若馬の調教・トレーニングは順調に進んでおります。また、近隣牧場から歩いて利用できる出入り口ゲートのうち、第1ゲートに電動式で開閉するバーを開発して設置し、昨年末から試験運用しております。手動による柵の開け閉めの煩わしさが解消され、利用者の評判も良く、今後、冬季間での課題を改善して、残りのゲートにも設置する予定です。

当センター研修生は、3月に北海道遺産である北海道の馬文化(ばん馬)を学ぶべく、帯広のばんえい競馬を見学、馬に関する見聞を広めるとともに、日頃見慣れた軽種馬のレースとは違うパワーと迫力に圧倒されておりました。また、研修も残り半月となり、ここで学んだ1年間の研修成果を就労先で即戦力として発揮すべく、仕上げに余念のない今日この頃です。(Y.H.)

地球温暖化の進行が世界的に危惧されていますが、今年の日高の冬は日高とは逆に日本上空に居座った寒気団の影響で、低気圧の通過に伴いしばしば降雪に見舞われました。第1回東京競馬2日目および4日目が2週連続で開催中止となり、代替競馬が開催されました。また、第2回京都競馬3日目では3レース以降が中止となり、翌々日続行競馬が開催されました。競馬開催が変則的になったため馬のコンディション調整に関係者の皆さんはご苦労されたのではないのでしょうか。

「たづな」欄は、昨年9月に日本中央競馬会理事に就任された水野豊香氏に、長年にわたりわが国の競走馬の獣医療や保健衛生と競馬に携わってこられた経験から、その抱負を語っていただきました。競馬の発展の裏に横たわる様々な部分での“折り合い”の重要性を再認識いたしました。

馬関係の科学的知識や情報を掲載している「科学の箱馬車」欄には山口大学の山野聖子先生と宮田浩文先生に「サラブレッドの骨格筋の特性」について、執筆していただきました。競走馬の骨格筋についての研究をもとに分かり易く解説していただきましたので、若馬の育成や調教の参考にしていただければ幸いです。

「調査研究」欄は、JRA日高育成牧場の岡野 篤氏に育成馬に対するライトコントロール法の適用の有用性を解説していただきました。日照時間を人為的に徐々に増やすことで、育成馬の成長が早まり見違えるほど馬体が良くなることをご理解いただけたと思います。(T.Y.)